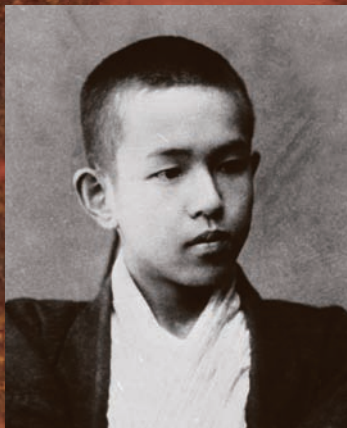


啄木の『一握の砂』刊行から100年。
啄木のすべてを愛した友
宮崎郁雨が著した「歌集『一握の砂』を読む」が
1世紀の時空を超えて初の単行本化！

啄木と郁雨



桜出版の新刊

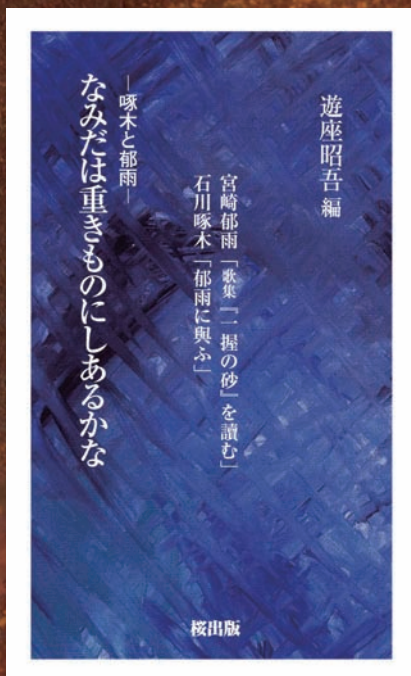
— 啄木と郁雨 —

なみだは重きものにしあるかな



昭和19年前後の宮崎郁雨（写真提供=宮崎郁子）

啄木の『一握の砂』刊行が明治43年（1910）12月1日。そのわずか2週間後の12月15日から45回にわたって函館日日新聞に連載された郁雨の「歌集『一握の砂』を読む」がその後100年間、なぜ一度も活字にならなかつたのか。それは近代文学史の大きな謎です。その連載が、ちょうど100年目の2010年12月1日、啄木の「郁雨に與ふ」と一冊になり待望の単行本化！



新書判 236P
（本文 228P+巻頭グラビア 8P）
定価 1,000 円（本体 952円+税）



四六判並製 本文 224P
定価 1,000 円（本体 952円+税）
（2008年刊行）

あわせてご購入をおすすめします。

北天の詩想

啄木・賢治 それ以前・それ以後
100年を越えてなお、多くの読者を魅了してやまない啄木・賢治の詩と文学の魅力とはなにか。本書は啄木が育った浜民・報徳寺で生まれ育ち、その問いに真つ向から取り組んできた著者遊座昭吾のライフワークの書「北天の詩想」は、天を見失った現代人に贈る魂のメッセージ。一世紀の時空を超えて郁雨の「歌集『一握の砂』を読む」を単行本として世に送り出すきっかけとなった書です。

◆遊座昭吾編
宮崎郁雨 「歌集『一握の砂』を読む」
石川啄木 「郁雨に與ふ」

●ご注文はお近くの書店、ネット書店または桜出版へ
啄木と郁雨 「なみだは重きものにしあるかな」
ISBN978-4-903156-11-8 C0095

桜出版

〒162-0835 東京都新宿区中町1番地
電話 (03) 3269-3420
FAX (03) 3269-8480
E-Mail sakuraco@leaf.ocn.ne.jp